

食品安全委員会が収集したハザードに関する主な情報

○微生物・プリオン・自然毒

欧州食品安全機関 (EFSA) 及び欧州疾病予防管理センター (ECDC)、ヒト、動物及び食品由来の人獣共通感染性細菌及び指標細菌の薬剤耐性に関する 2011 年欧州連合 (EU) 総括報告書を公表

公表日：2013 年 5 月 16 日 情報源：欧州食品安全機関 (EFSA)

<http://www.efsa.europa.eu/en/efsajournal/doc/3196.pdf>

欧州食品安全機関 (EFSA) 及び欧州疾病予防管理センター (ECDC) は 5 月 16 日、ヒト、動物及び食品由来の人獣共通感染性細菌及び指標細菌の薬剤耐性に関する 2011 年欧州連合 (EU) 総括報告書を公表した。報告書の概要は以下のとおり。

EFSA 及び ECDC は共同で、EU 加盟の 26 か国から提出された 2011 年の人獣共通感染性細菌及び指標細菌の薬剤耐性に関するデータの分析を行った。

1. シプロフロキサシン耐性

動物及び食品から分離されたサルモネラ属菌、カンピロバクター及び指標大腸菌において、高い割合でシプロフロキサシン耐性が見られたことが依然として懸念される。サルモネラ属菌のうち、シプロフロキサシン耐性の出現率が高いのは、生きた七面鳥 (50.4%)、生きた鶏 (*Gallus gallus*) (28.7%) 及びブロイラー肉 (50.1%) であった。【訳注・国別出現率の一例：生きた鶏におけるシプロフロキサシン耐性サルモネラ属菌の出現率は 16 カ国から報告があり、ハンガリー 63.5%、スロバキア 55.6% からアイルランド 1.5%、デンマーク及びラトビア 0% まで大きな違いがみられた。】

指標大腸菌では、生きたブロイラー (出現率：53.1%) 及び生きた豚 (出現率：8.3%) 由来の分離株において、シプロフロキサシン耐性が確認された。更に、カンピロバクターでは、生きた牛、生きた豚、生きた鶏及びブロイラー肉由来の分離株において、シプロフロキサシン耐性が確認された (出現率：36%～78%)。

2. セフォタキシム耐性

生きた鶏、生きた七面鳥、生きた豚、生きた牛及び鶏肉由来のサルモネラ属菌分離株においては、第三世代セファロスポリンであるセフォタキシムへの耐性は、極めて低いレベルであった (出現率：0～3%)。また、生きた鶏、生きた豚及び生きた牛由来の指標大腸菌分離株において、セフォタキシム耐性が確認された (出現率：1%未満～6.4%)。

3. エリスロマイシン耐性

生きた鶏、生きた豚及び家きん肉由来のカンピロバクター分離株において、エリスロマイシン耐性が確認された (出現率：2～25%)。

4. 多剤耐性

生きたブロイラー、生きた七面鳥、生きた豚由来のサルモネラ属菌分離株及び生きたブロイラー、生きた豚由来の指標大腸菌分離株の多剤耐性の出現率が高かった。しかし、臨床上に重要な抗菌性物質であるシプロフロキサシン及びセフォタキシムの両方に耐性を示す分離株は、サルモネラ属菌及び指標大腸菌においてわずかしき確認されなかった。

生きたブロイラー由来のカンピロバクター・ジェジュニ分離株の多剤耐性の出現率は一般的に低く、シプロフロキサシン及びエリスロマイシンの両方に耐性を示す分離株は検出されなかったか、低いレベルで確認されたかのいずれかであった。

○関連情報 (海外)

米国食品医薬品庁 (FDA)：2011 年全国薬剤耐性モニタリングシステム・市販食肉年次調査報告書 (2013 年 2 月 5 日)

<http://www.fda.gov/AnimalVeterinary/NewsEvents/CVMUpdates/ucm335102.htm>

○関連情報 (国内)

食品安全委員会：食品安全確保総合調査報告書「畜水産食品における薬剤耐性菌の出現実態調査」(調査期間：平成 18～20 年度)

平成 18 年度 調査対象細菌：大腸菌、腸球菌、サルモネラ属菌、カンピロバクター 調査品目：牛肉、豚肉、鶏肉

<http://www.fsc.go.jp/fsciis/survey/show/cho20070330014>

平成 19 年度 調査対象細菌：大腸菌、腸球菌 調査品目：牛肉、豚肉

<http://www.fsc.go.jp/fsciis/survey/show/cho20080030001>

平成 20 年度 調査対象細菌：大腸菌 調査品目：牛肉、豚肉

<http://www.fsc.go.jp/fsciis/survey/show/cho20090100001>

※詳細情報及び他の情報については、食品安全総合情報システム (<http://www.fsc.go.jp/fsciis/>) をご覧下さい。